

天塩の歩みを、赤レンガに刻んで 天塩川歴史資料館

天塩川歴史資料館 学芸員 鷹尾 心



HPはこちら



天塩川歴史資料館について

天塩川歴史資料館の建物は、元は天塩町役場として建てられたものを利用しています。役場庁舎として建築された1951（昭和26）年から新庁舎が落成した1979（昭和54）年まで、町のシンボル「赤レンガ庁舎」として町民に親しまれていました。レンガを積み上げる作業には当時の役場職員も駆り出され、わずか11カ月で完成させたと言われています。当時の天塩町の経済的な状況を鑑みると非常に無理をした建築工程だったと思われますが、そのおかげで現在でも町のランドマークとして愛される建物の姿が残されています。

展示の概要

改装を経て1989（平成元）年に資料館として生まれ変わった際には、町民のみなさまからの2,000点を超える寄贈資料を基に展示が構成されました。それぞれの資料は「川と海のくらし」「テセウから天塩へ」「旧町長室」「街のくらし」「くらしを守る」「原野のくらし」「知を啓き、次代を拓く」「天塩川のめぐみ」「北方圏

への夢」の9つのコーナーに分かれています。生活用具や農具を中心に、明治～昭和初期の天塩での暮らしや世界最古のコククジラ化石「テシオコククジラ」のレプリカ、姉妹都市であるアラスカ州ホーマー市から贈られた物品などの展示をご覧ください。

展示の見どころ

当館の見どころとして、2つの展示を紹介します。まずは資料館に入って真っ先に目に入る迫力満点の大きな帆船、「長門船」と呼ばれる川船の模型です。天塩町で実際に造船所を営んでいた橋詰造船所の船大工によって、本物の2分の1の大きさに制作されました。長門船は、「天塩材」という呼び名が付くほど重宝された天塩川流域の木材を運搬していた川船の総称で、天塩町の木材産業や経済発展の歴史を語る上で欠かせない象徴的な展示です。

そして、もう1つはテシオコククジラの化石レプリカです。この化石は1995（平成7）年、天塩町市街地から南東に位置する男能富^{だんのつぶ}の国有林で発見され、翌



資料館の入り口でお客様を出迎える長門船

1996（平成8）年に発掘作業が行われました。発掘されているコククジラ科の化石の中では世界で最も古い、およそ300万年前の年代の化石です。

天塩川歴史資料館の取り組み

当館には2025（令和7）年に初めて専任の学芸員が配置されました。1989（平成元）年の開館から40年弱経ち、数十年間未整理の資料や放置された設備機材、近年の気温上昇に対応できない展示環境、情報発信体制など、対応が必要な箇所は枚挙に暇がありません。これから先、天塩町の歴史を紡ぐ大切な資料を未来に繋^{つな}げていくために、町の資料館としての可能性を模索していく必要があると考えています。

昨年からの新たな取り組みとして、資料館のデジタルコンテンツの充実を図っています。都市部から離れた天塩町へ足を運ばなくても、この町に興味を持ち、来訪のきっかけになるコンテンツを町外・道外の人々がインターネット上で楽しめる状態にできれば、と考えているためです。そのため、資料館公式ウェブサイトの開設やウェブサイト上で遊べる化石発掘ゲームの開発を行いました。また、資料館内では音声ガイドタブレットの貸し出しや、テシオコククジラ化石レプリカの3Dモデルを閲覧できるタブレットの設置など、展示をより楽しめる工夫を続けています。

この町の記憶を繋ぐハブとして、天塩川歴史資料館を長く親しんでいただけるよう日々展示や教育普及活動の進化を今後も続けていく予定です。当館に興味を



公式ウェブサイト上で遊べる化石発掘ゲーム



化石レプリカを360度回転させることができる閲覧アプリ
持っていただけましたら、ぜひ足をお運びください。
最新情報や化石発掘ゲームへのリンクは当館の公式ウェブサイトにてご確認ください。みなさまのご来館を心よりお待ちしております。

ご利用案内

所在地

〒098-3303 北海道天塩郡天塩町新栄通 6 丁目
TEL: 01632-2-2071(冬季休館期間: 01632-2-1026)

開館時間 10:00~17:00 (入館は16:00まで)

休館日 4・10月: 月曜日
5・6月: 第2・第4月曜日
7・8・9月: なし
11月~3月: 冬季休館
そのほか館が定める日

入館料 200円 (高校生以下無料)